

ブルボン

環境報告書 2024

BOURBON Environmental Activity Report



おいしさ、思いやり、 いつもいっしょに。

Contents

■ごあいさつ	01
■持続可能な未来社会へのアプローチ	02
■環境マネジメントシステム	03
■環境との関わり	05
■目標と実績	06
■地球温暖化防止活動	08
■省資源活動	12
■省エネルギー活動	14
■廃棄物削減・リサイクル・環境リスクマネジメント活動	15
■環境の保全・維持、社会との共生	16

- 記載対象期間 2023（令和5）年4月1日～2024（令和6）年3月31日
- 記載対象範囲 株式会社ブルボン（グループ会社は対象外）

ごあいさつ



持続可能な社会を目指して

技術革新により利便性が飛躍的に向上し、私たちは快適な生活を送ることができるようになってきているものの、世界を取り巻く地球環境問題は、地球温暖化や大気汚染、廃棄物対策など個人・企業を問わず社会全体で継続的に取り組み改善していく必要があります。

食の安全と安定供給体制維持のため、気候変動対策や脱炭素、再生可能エネルギー等に関する積極的な取り組みが求められるほか、それらを実践する社員が長く活躍できる就業環境の整備や、社会の変化に対応したコーポレート・ガバナンスの充実など、企業の社会的責任も求められています。これらは事業活動を通じて私達が一丸となって対処すべき共通の課題であり、2015年に国連で採択されたSDGsの課題解決を通じたサステナブルな社会の構築のために、多様な観点から継続的に取り組み、改善していく必要があります。

当社は、経営理念として「利害相反する人を含めて、集団の生存性を高める」を掲げ、当社を取り巻く七媒体（消費者、流通、国・県・市町村、株主、金融機関、取引先、従業員）の全ての生存性を高める企業活動を目指しております。この活動の一つとして、行動規範・指針を策定し、役員および従業員全員で社会への貢献、国際社会ルールへの適応、人間尊重などの基本方針に沿った取り組みを推進してまいりました。また、環境問題に対しましても、環境基本理念として「顧客の要望に応える品質水準で、安全・安心・経済的な飲食とサービスを継続的に提供するため、製品の研究開発、販売、流通、消費、廃棄に至る各段階で地球環境の保全と環境問題について自主的な改善活動に取り組み、社会に貢献することが、私たちの環境活動です。」を掲げ活動を推進してまいりました。さらにこの活動が、組織・システムとして機能するように、ISO14001環境マネジメントシステムの構築を図り、2000年6月の認証取得以来、継続した改善を行ってまいりました。

創立100周年を迎え、今後も食品製造企業として「品質保証第一主義」に徹した種々の活動に継続して取り組んでまいります。“食”を通じて豊かな生活と健康への寄与など皆様の幸せな生活に深く関わるとともに、全社一丸となってこの考えをさらに推し進め、環境保全を含めた“心と体の健康づくり”をテーマに、持続可能な未来社会をデザインしていく健康増進総合支援企業として、継続的な発展と社会への貢献を目指してまいります。本報告書により2024年3月までの当社グループの環境保全活動をご報告いたします。

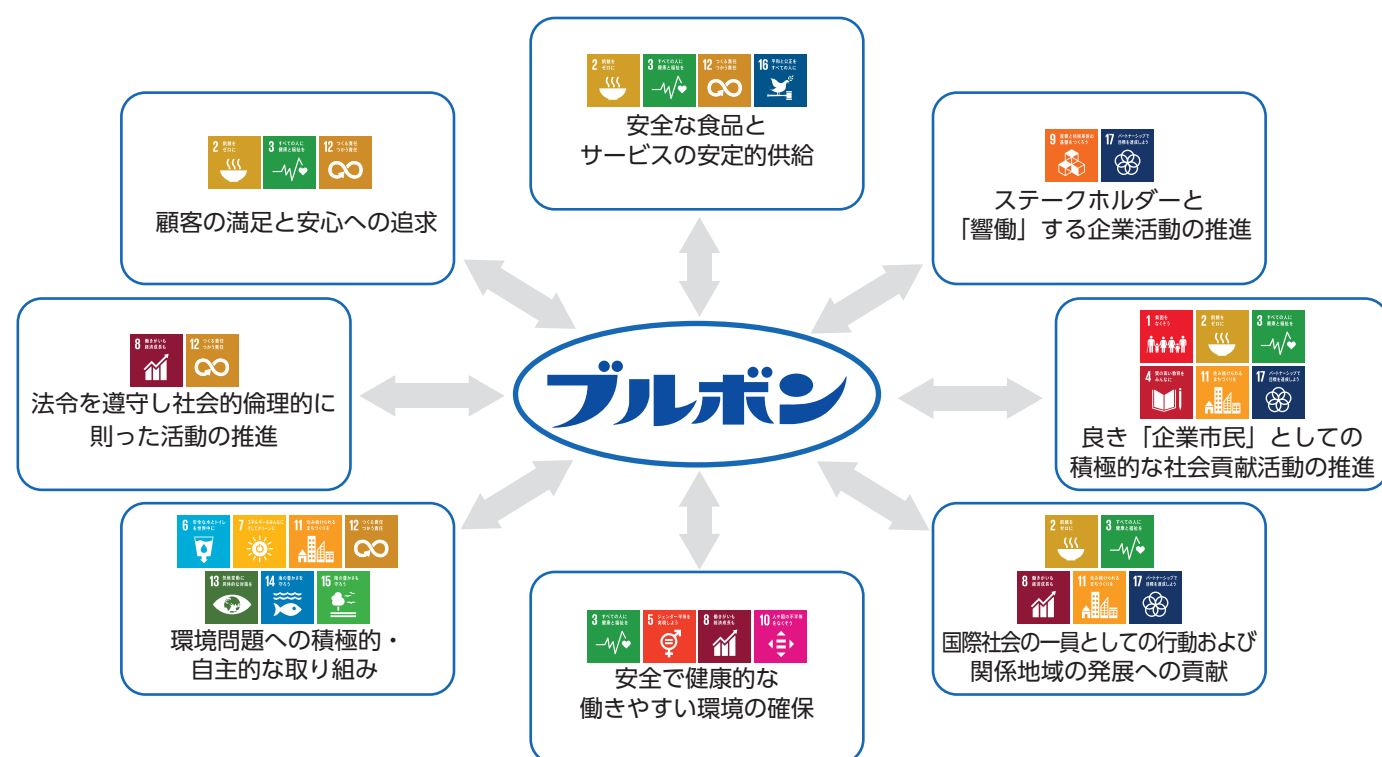
皆様からの忌憚のないご意見やご指導を賜りますようお願い申し上げます。

株式会社 **ブルボン**
代表取締役社長 **吉田 康**

持続可能な未来社会へのアプローチ

株式会社ブルボンは、関東大震災の影響により地方への菓子供給が全面的にストップした窮状を見て、地方での量産工場による菓子作りを決意し、1924（大正13）年に新潟県柏崎で創業しました。以来、災害や社会的困難が起きた時にも「お役に立てる企業であり続ける」という創業の原点継承を本願として事業活動を継続してきました。当社の主要な事業のひとつであるお菓子作りは平和な社会の礎がないと成り立ちません。平和の尊さと心を通わせることの大切さを感じながら、菓子・飲料・食品・マスクの開発・製造・販売を通じて豊かな生活と健康への寄与など皆様の幸せな生活に深く関わってきました。このような思いを込めた当社の経営理念「利害相反する人を含めて、集団の生存性を高める」を通じて、社会全体が良くなることに貢献することと、そのことが結果的に自分たちの会社やグループの向上につながることを目指しています。この“生存性を高める”とは、すなわち“持続可能であること”であり、SDGsに呼応することと考えています。これからも社会の一員として役割と責任を果たすよう正しく行動し、社会への貢献を推進してまいります。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



環境マネジメントシステム

環境基本理念

顧客の要望に応える品質水準で、安全・安心・経済的な飲食とサービスを継続的に提供するため、製品の研究開発、販売、流通、消費、廃棄に至る各段階で地球環境の保全と環境問題について自主的な改善活動に取り組み、社会に貢献することが、私たちの環境活動です。

環境基本方針

- ①食品企業として、原材料調達、開発、生産、販売、流通、消費、廃棄に至る各段階に於いて地球環境に影響する問題を、可能な範囲内に於いて自主的取り組みを行い、環境改善の向上に取り組みます。
- ②環境問題について継続的な改善と汚染予防に取り組みます。
- ③環境の関係法令、規則、協定等を順守致します。
- ④環境目標を設定し、環境に影響する問題の低減を図り、環境マネジメント体制の整備に取り組み、環境目標の見直しを継続して行います。
- ⑤環境パフォーマンスを向上させるため、環境マネジメントシステムを継続して改善していきます。

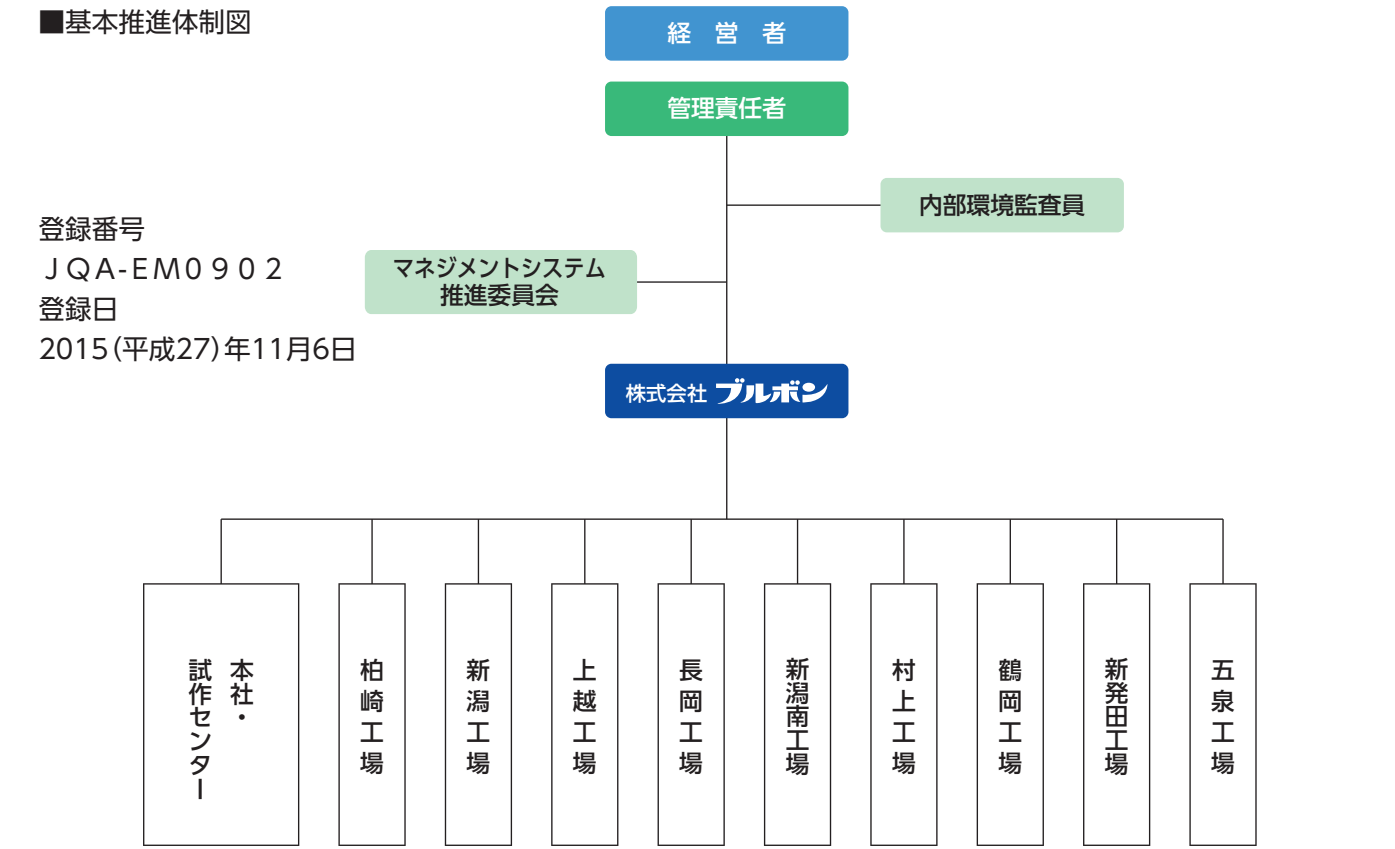
ISO14001認証取得の推移

登録認証機関：一般財団法人日本品質保証機構（JQA）

- 2000年6月に(株)ブルボン本社、本社工場（現・柏崎工場）、駅前工場において、認証を取得しました。新潟県内の食品会社では初めての取得になりました。
- 2005年7月にISO14001の規格変更に伴い、2004年度版へ移行しました。同年10月に上越工場において認証を取得しました。
- 2005年に駅前工場を本社工場へ統合しました。また、商品開発センター（現・試作センター）を設立しました。
- 2006年5月の更新時において、登録範囲を(株)ブルボン本社、本社工場、商品開発センターに変更しました。
- 2007年11月に長岡工場と北日本羽黒食品(株)羽黒工場（現・鶴岡工場）において認証を取得しました。同年12月に新潟南工場と村上工場において認証を取得しました。
- 2008年2月に新潟工場において認証を取得しました。
- 2009年11月に新発田工場において認証を取得しました。
- 2011年2月に五泉工場において認証を取得しました。
- 2015年9月に各工場単位で取得していた認証を全社統合しました。
- 2017年10月にISO14001の規格改訂に伴い、2015年度版へ移行しました。

推進体制

当社では、環境問題に対する全社的な取り組みを行うためにISO14001を基軸とした環境マネジメントシステムを構築しています。直接的な環境影響に加え間接的な環境負荷の継続的改善にも取り組みながら、一層の社会的責任を果たすため、環境マネジメントシステムの改善を進めてまいります。

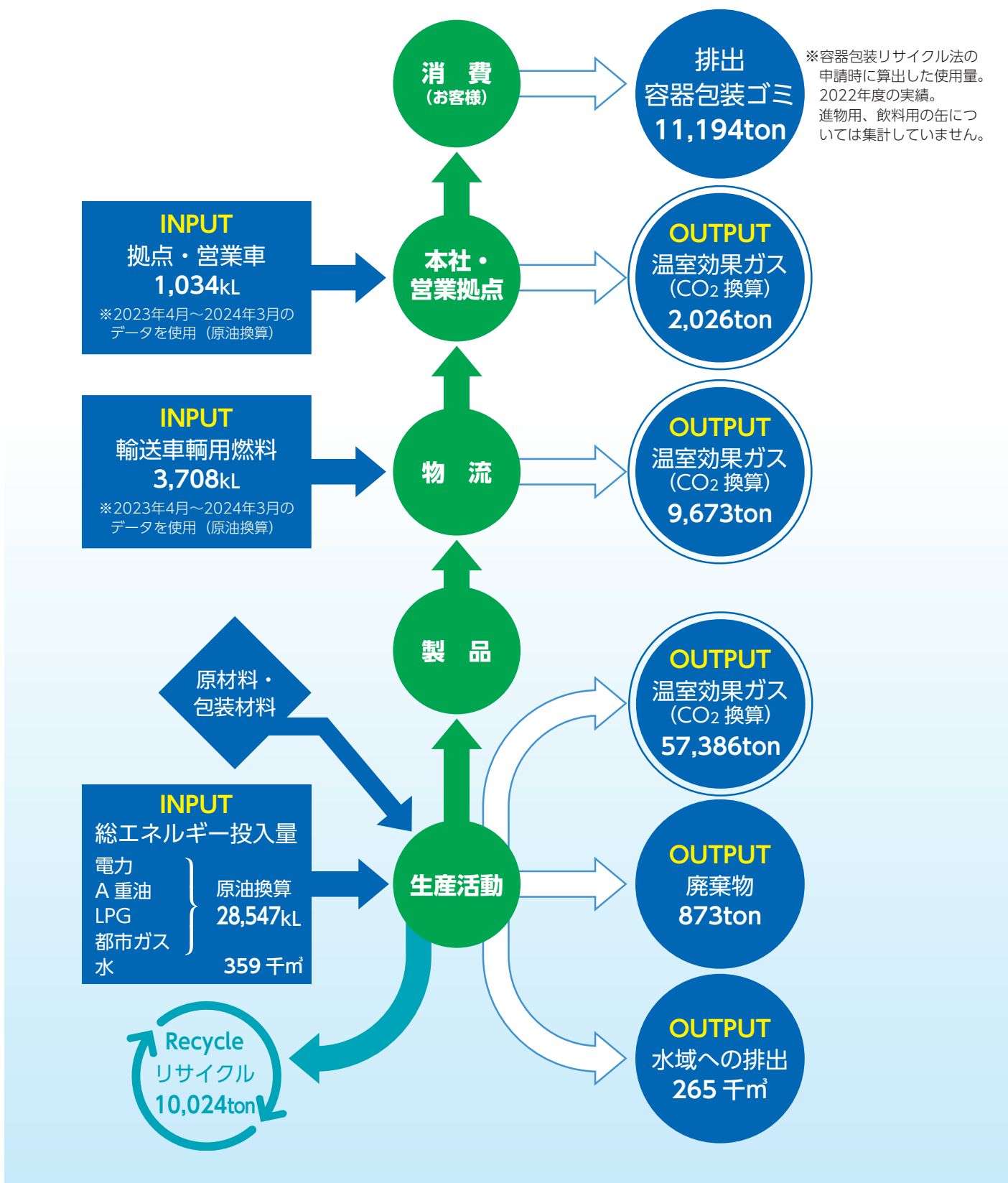


主な環境関連法

項 目	環境関連法			
環境一般	●環境基本法	●循環型社会形成推進基本法	●公害防止組織法	
地球環境関連	●地球温暖化対策推進法	●オゾン層保護法	●フロン排出抑制法	
大気汚染関連	●大気汚染防止法			
水質汚濁関連	●水質汚濁防止法	●下水道法		
騒音・振動関連	●騒音規制法	●振動規制法		
悪臭関連	●悪臭防止法	●浄化槽法		
エネルギー関連	●省エネルギー法	●建築物省エネ法		
廃棄物関連 リサイクル関連	●廃棄物処理法 ●食品リサイクル法	●プラスチック資源循環促進法 ●容器包装リサイクル法	●その他各種リサイクル法	
化学物質関連	●PRTR法			
安全関連	●労働安全衛生法	●高圧ガス保安法	●毒物、劇物取締法	●消防法
土壌汚染関連	●土壌汚染対策法			

環境との関わり

当社は、事業活動として菓子、飲料、食品、マスクを製造し、お客様へ提供しています。製造に使用する原料、包装材料、製造・加工のためのエネルギー、お客様へお届けするための輸送のエネルギーは、全て環境からの恩恵を消費し、製造・加工に伴い発生する不要物を排出しています。環境負荷の低減については、どんなに小さな活動でも、継続して実施していくことが大切です。自らの活動がどのように環境と関係しているのかを、正しく認識するとともに、率先した環境への取り組みを実践してまいります。



目標と実績

本社・各工場の目標と実績（主な活動の抜粋）

経営者の定めた環境方針の達成および環境活動による実績を継続的に改善するため、環境目的・目標を立案し、それぞれの活動の進捗・遂行管理を行い取り組んでいます。
実績は次の活動への参考データとし、より一層の活動推進に取り組みます。

《2023年度環境目標・実績（抜粋）》

〈達成状況〉 評価内容 計画通りに推移している…◎ 目標に向けて順調に推移している…○ 継続した取り組みを行う…△

		2023年度目標	2023年度実績	達成状況
本社・試作センター	 本社ビル	●エネルギー使用量を、原単位で2022年度比1.0%削減する	原単位 2.1%削減	◎
		●廃棄物排出量を、原単位で2022年度比3.0%削減する	原単位 12.9%削減	◎
		●規格外品発生量を、原単位で2022年度比5.0%削減する	原単位 4.7%増加	△
	 試作センター	●輸送エネルギー使用量を、原単位で2022年度比1.0%削減する	原単位 6.9%削減	◎
		●30件の商品包装材の減量化・見直しを行う	59件の減量化、見直しを実施	◎
		●36件の環境対応素材の導入を行う	38件の導入を実施	◎
		●品質と収益性の向上を目指した機械開発、導入を行う	21件の機械開発、導入を実施	◎
柏崎工場		●電気、L P G、都市ガスの原油換算量を、原単位で2022年度比1.0%削減する	原単位 2.2%削減	◎
		●廃棄物排出量を、原単位で2022年度比3.0%削減する	原単位 17.9%増加	△
		●規格外品発生率を、2022年度比5.0%削減する	原単位 15.9%増加	△
新潟工場		●電気の使用量を、原単位で2022年度比1.0%削減する	原単位 3.3%増加	△
		●重油、L P G、都市ガスの原油換算量を、原単位で2022年度比3.0%削減する	原単位 0.8%削減	○
		●廃棄物発生量を、原単位で2022年度比1.0%削減する	原単位 8.5%削減	◎

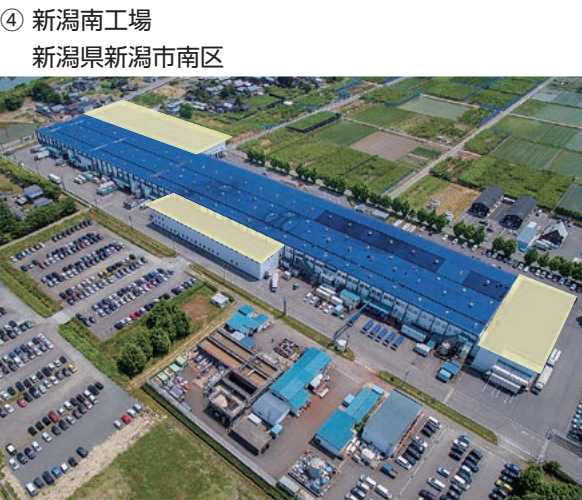
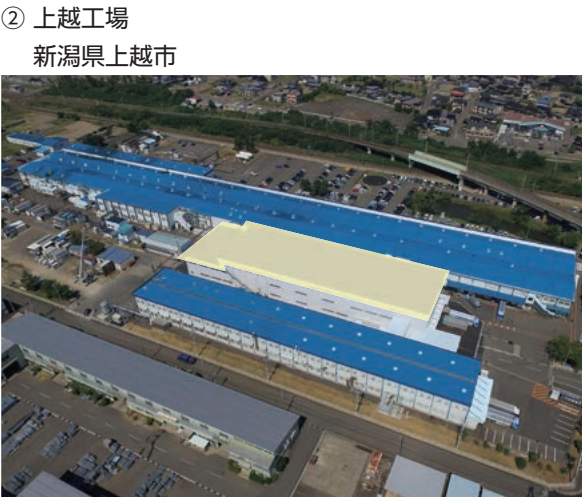
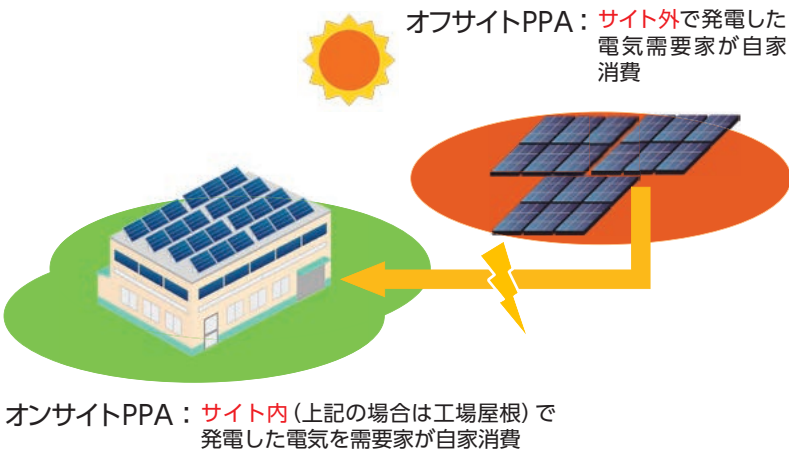
		2023年度目標	2023年度実績	達成状況
上越工場		●電気の使用量を、原単位で2022年度比1.0%削減する	原単位 1.3%削減	◎
		●L P G使用量を、原単位で2022年度比1.0%削減する	原単位 7.2%削減	◎
		●都市ガス使用量を、原単位で2022年度比1.0%削減する	原単位 5.9%増加	△
		●廃棄物排出量を、原単位で2022年度比3.0%削減する	原単位 12.5%削減	◎
		●規格外品発生率を、原単位で2022年度比で5.0%削減する	発生率 15.2%削減	◎
長岡工場		●電気、A重油、L P Gの原油換算量を、原単位で2022年度比1.0%削減する	原単位 0.3%増加	△
		●廃棄物排出量を、原単位で2022年度比3.0%削減する	原単位 14.1%削減	◎
		●主力商品における規格外品発生率を2022年度比5.0%削減する	発生率 8.2%増加	△
新潟南工場		●電気、L P G、都市ガスの原油換算量を、原単位で2022年度比1.0%削減する	原単位 0.4%増加	△
		●廃棄物排出量を、原単位で2022年度比3.0%削減する	原単位 2.4%増加	△
村上工場		●電気、A重油、L P Gの原油換算量を、原単位で2022年度比1.0%削減する	原単位 0.5%削減	○
		●廃棄物排出量を、原単位で2022年度比3.0%削減する	原単位 1.8%削減	○
新発田工場		●電気の使用量を、原単位で2022年度比1.0%削減する	原単位 9.1%増加	△
		●L P G使用量を、原単位で2022年度比1.0%削減する	原単位 2.1%削減	◎
五泉工場		●全移動用段ボールに対するコンテナ使用比率を16%以上にする	コンテナ使用率 12.9%	○
鶴岡工場		●電気、A重油、L P Gの原油換算量を、原単位で2022年度比1.0%削減する	原単位 2.4%削減	◎
		●規格外品発生率を、原単位で2022年度比5.0%削減する	原単位 19.3%増加	△

地球温暖化防止活動

脱炭素社会に向けた取り組み

世界的に深刻化する気候変動問題を踏まえ、脱炭素社会の実現に向けた温室効果ガス排出量の実質ゼロをめざす動きが広がっています。国内でも太陽光などの再生可能エネルギーを使用して発電した電力を自家消費することで、事業活動における二酸化炭素の排出量を削減する取り組みが拡大しています。

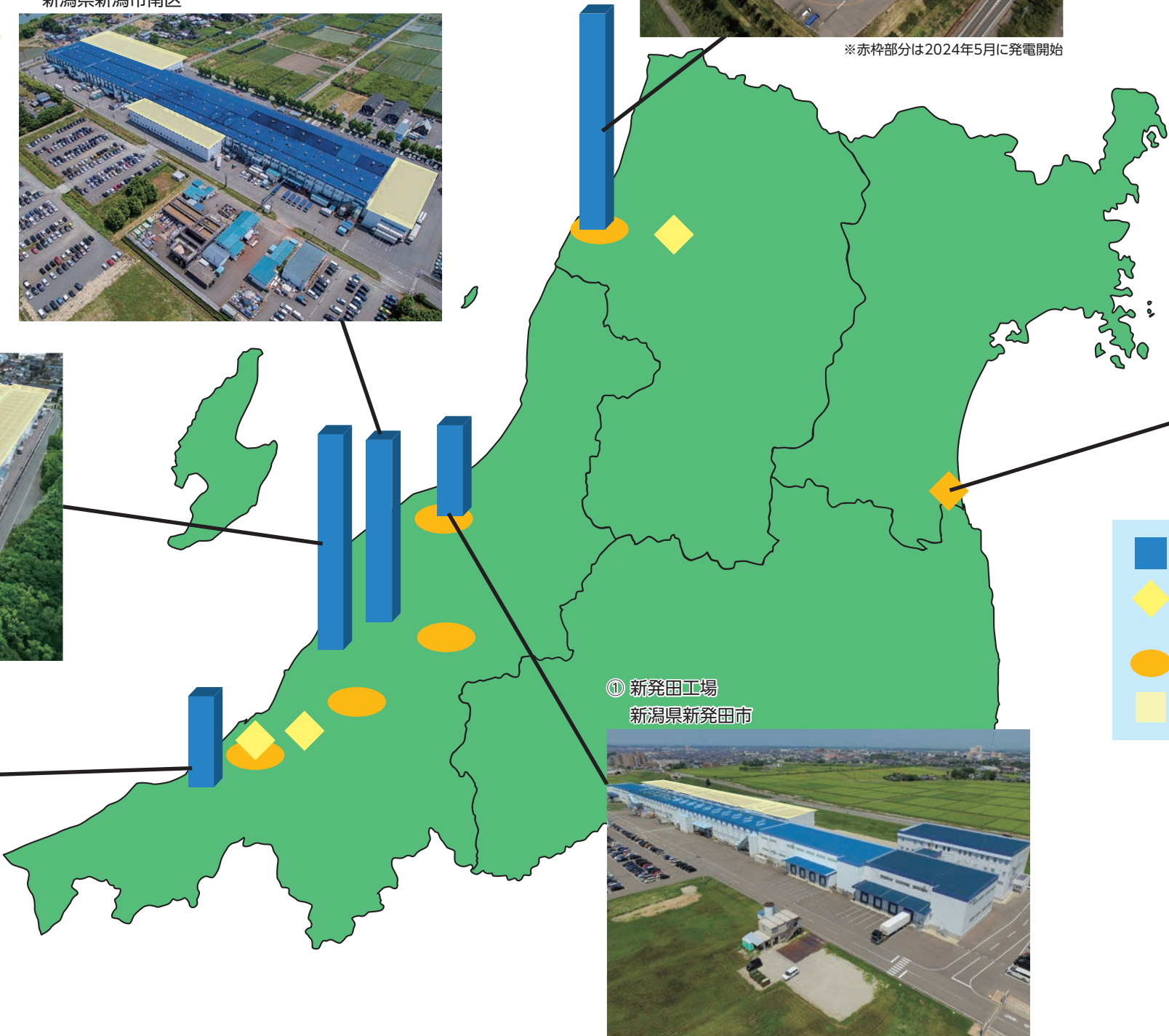
当社では、環境負荷低減活動の一環として、2020年に新発田工場で自家消費型太陽光発電（PPA）を開始し、各工場での展開を進めています。また、2024年2月にはオフサイト型コーポレートPPAによる再生可能エネルギーの使用を開始しました。



※赤枠部分は2024年5月に発電開始

■オンサイトPPAにおける二酸化炭素削減量

	工場	発電容量 (kW)	削減量 (t/年)
①	新発田工場	410	212
②	上越工場	370	203
③	新潟工場	865	470
④	新潟南工場	719	393
⑤	鶴岡工場	1124	522



- ：オンサイトPPAにおける二酸化炭素削減量
- ◆：2024年度に稼働予定のオフサイトコーポレートPPA太陽光発電所
- ：オフサイトコーポレートPPA活用工場
- ：工場屋根太陽光パネル設置部分

モーダルシフトの推進とコンテナ大型化の推進

当社では、二酸化炭素排出削減対策として、トラック輸送から環境にやさしい鉄道や船舶によるエコ輸送への転換（モーダルシフト）に取り組んでいます。物流の分野において、鉄道貨物輸送を利用して1トンの貨物を1km輸送したときに排出される二酸化炭素は、トラックに比べて約11分の1と少なく、地球温暖化への影響を抑制できます。今後も継続して、環境負荷が少なく地球環境にやさしい配送を推進してまいります。また、12フィートコンテナを31フィートコンテナへ大型化し、トータル輸送台数の削減を図っています。2022年に、「プチ」シリーズのキャラクター「プチクマ」のラッピングを施した貨物鉄道用コンテナ「プチクマコンテナ」の運用を開始し、現在は当社商品を描いた専用コンテナも運用しています。

トラックドライバー不足（労働力不足）の問題も深刻化しているなかでさらにモーダルシフトを推進し、脱炭素化や地球温暖化防止に貢献するアプローチを行うとともに、物流業界の課題解決にも努めてまいります。

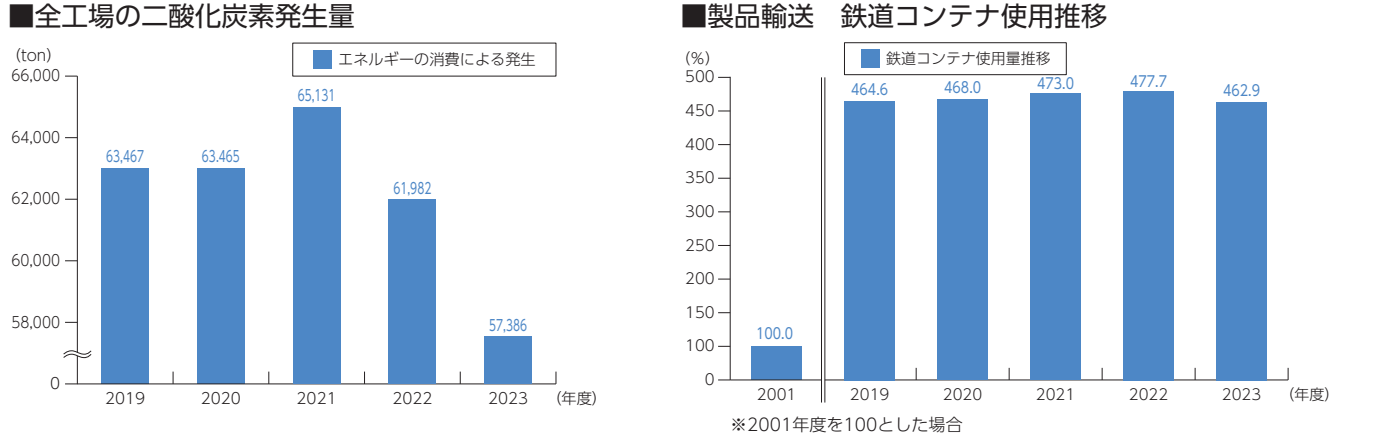


エコレールマーク認定商品

当社は、国土交通省ならびに公益社団法人鉄道貨物協会が実施する“エコレールマーク”活動に賛同し、2006年に“エコレールマーク取組企業”の認定を受けました。また同年12月には、当社商品「イオン水」「天然名水出羽三山の水」「プチ」シリーズ等で“エコレールマーク認定商品”を受けるなど活動を進めてまいりました。現在は40品近くの商品パッケージにエコレールマークの掲載を行っています。

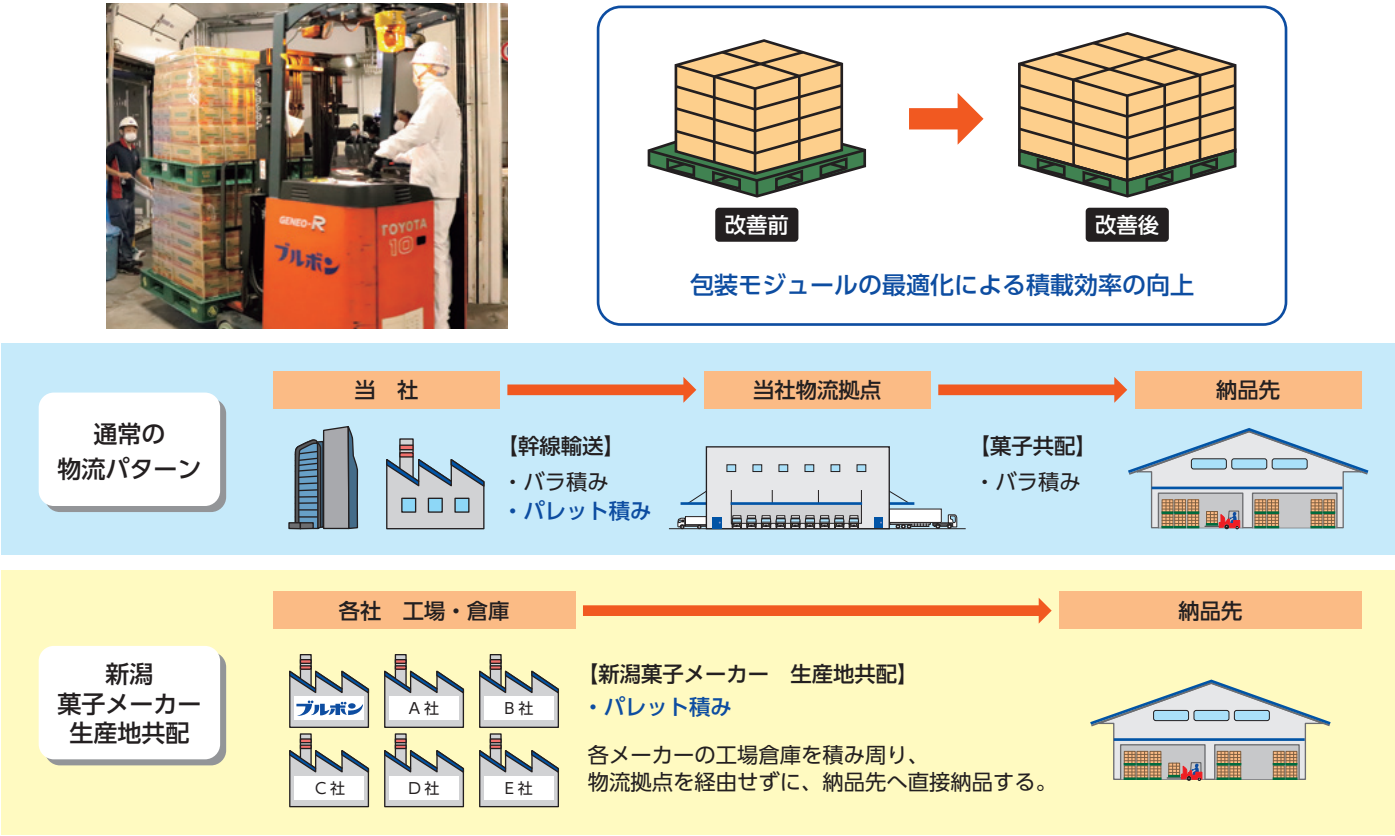


温室効果ガスの排出抑制



パレット輸送による配送効率化

当社では、配送効率の向上と物流課題の解決を目的として、鉄道コンテナならびに大型トラックでの輸送時にパレット輸送を推進しています。手積み荷役（バラ積み）と比較し作業時間が大幅に短縮できることに加え、輸送品質の向上も期待できます。この取り組みを進めるにあたりケースサイズの標準化を推進しており、パレット積載効率の向上を図っています。また、新潟県内の菓子メーカーとともに生産地からの共同配送実験に取り組み、「持続可能な物流網の構築」に取り組んでいます。



水性グラビア印刷包材を使用した商品

「水性グラビア印刷」は、油性グラビア印刷と比較して、印刷工程での大気中への二酸化炭素排出量を低く抑えることができるほか、揮発性有機化合物（VOC）の使用・排出を削減する効果があり、VOCの排出削減は印刷作業環境の改善、作業従事者の健康維持などに繋がっています。また、水性グラビア印刷を採用したパッケージには、地球と人にやさしい水性印刷を施した包装材料使用商品であることを示す“水性印刷商品認証マーク※”を商品に表示しています。当社では引き続き、消費者のみならず、商品にかかわる人々の環境と健康にも配慮した商品設計を行い、積極的に推進してまいります。



※ 水性印刷商品認証制度：包装材料の印刷作業環境を改善し、作業従事者の健康維持を図るとともに、大気への揮発性有機化合物の排出削減等、環境に対する企業の社会貢献活動を促進する目的で創設され、一般社団法人健康ビジネス協議会が実施している認証制度です。

省資源活動

環境配慮型包材を使用した商品

当社では、石油由来プラスチック使用量の削減とプラスチックゴミの課題解決に向けた活動を推進しています。

①紙の比率を大きく高めたパッケージの採用

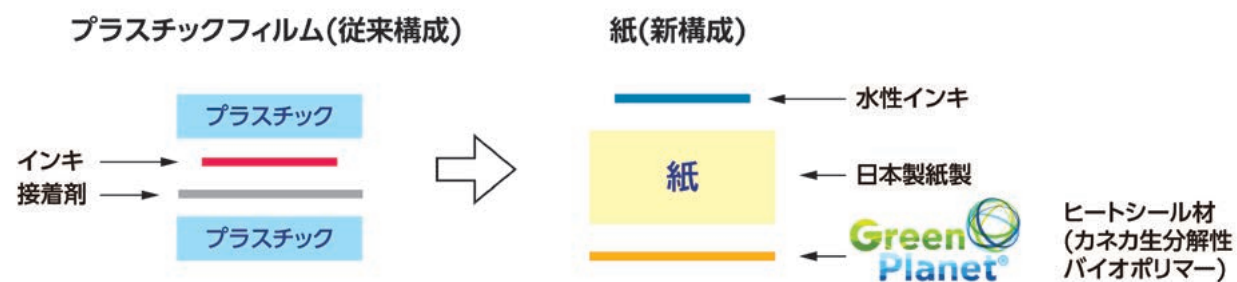
日本製紙株式会社および株式会社カネカと共同開発したヒートシール紙を「4種のひとくちスイーツ」の外装に採用しています。従来はプラスチックフィルムの複層構成としていたパッケージを、大部分を紙で構成した仕様としたことでプラスチック使用量の削減を図りました。また、環境に配慮した水性インクによるインクジェット印刷を取り入れています。なお、この取り組みは、公益社団法人日本包装技術協会が主催する「2023日本パッケージングコンテスト※注」において菓子包装部門賞を受賞しました。



4種のひとくちスイーツ



受賞盾



※Green Planet®は、二酸化炭素の排出量削減や地球環境保全に貢献する生分解性バイオポリマーです。100%植物由来のポリマーで優れた生分解性を有します。冷温環境下でも生分解性が進み海洋や土壌汚染の低減に貢献が期待できます。

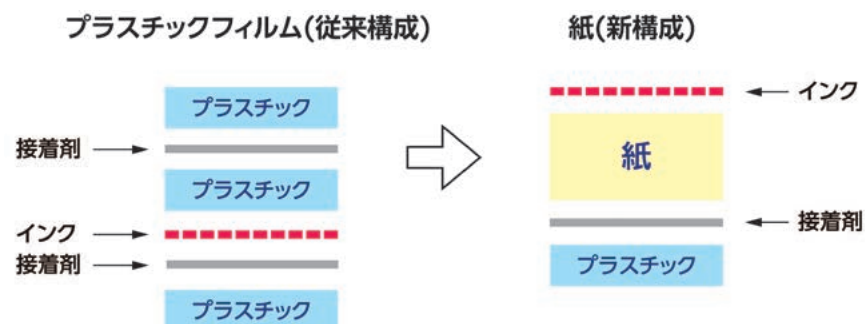
※注 時代と社会の要請に対応した、生活文化に優れたパッケージおよびその技術の開発普及に資することを目的として、公益社団法人日本包装技術協会が主催し毎年開催されているもので、2023年で45回目を迎えました。材料、設計、技術、デザイン、ロジスティクス、販売促進、アイデア、環境対応、適正包装など、あらゆる機能から各部門の年間の優秀作品を選定します。

②「贅沢ルマンド」シリーズのプラスチック使用量削減

「贅沢ルマンド」シリーズの外装には、包装適性やデザインはプラスチックフィルムと同等に保ちつつ、大部分を紙で構成した外装を採用しています。プラスチックパッケージと比較し60%以上のプラスチック使用量削減を図っています。



贅沢ルマンド



③バイオマスプラスチックの使用

商品パッケージの原料の一部や、商品を保護することを目的に使用しているトレーに植物由来のバイオマスプラスチックを使用しています。パッケージにバイオマスマーク※を掲載しているほか、トレー部分にはバイオマスマークを刻印しています。



バイオマス
使用部位:
外袋の一部
No.110028



※ バイオマスマーク:
生物由来の資源(バイオマス)を活用し、品質および安全性が関連する法規、基準、規格等に適合している環境商品に付与できるマークです。2006年8月から、一般社団法人日本有機資源協会が認定しています。

バイオマスプラスチック20%配合パッケージ (プチシリーズ)



バイオマスプラスチック25%配合トレーと使用商品一例

④FSC認証紙の使用

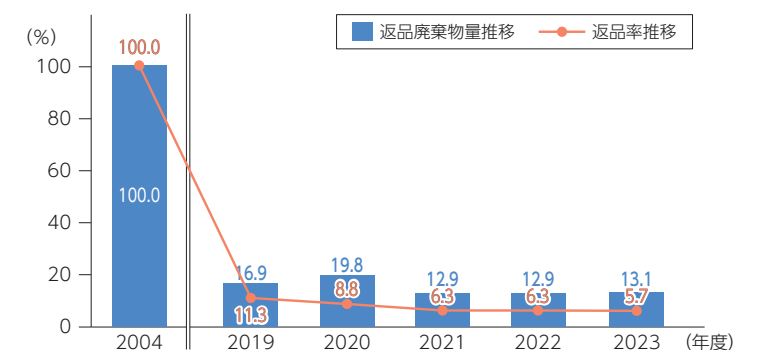
森林管理における環境、社会、経済的影響を考慮した10の原則と70の基準に基づき認証されたFSC認証林や、再生資源およびその他の管理された原材料で作られた紙の使用を進めています。FSCマークが付与された商品をお客様が選んでいただくことで、森林や生物多様性の保護などが期待できます。



返品廃棄物削減の取り組み

返品の削減活動に取り組み、商品の先入れ先出し管理の徹底や、適正量の管理などに継続して取り組んでいます。その結果、2004(平成16)年度比94.3%削減することができました。また、返品された商品は産業廃棄物として処分していますが、処分量についても2004年度比86.9%削減しています。

■返品廃棄物量および返品率推移



※2004年度を100とした場合

省エネルギー活動

省エネ法に基づく評価

経済産業省資源エネルギー庁が管轄し、2015年から実施している「省エネ優良事業者評価制度」において、当社は制度開始から**9年間連続で省エネ優良事業者（Sクラス☆印）を獲得**しています。

引き続き、エネルギーの効率的使用に図るとともに、製品の安定供給に努めてまいります。

※省エネ法の定期報告を提出する全ての事業者を、経済産業省が優れた順に4段階（S、A、B、C）にクラス分けし、Sランクの優良事業者を同省ホームページで公表するものです。

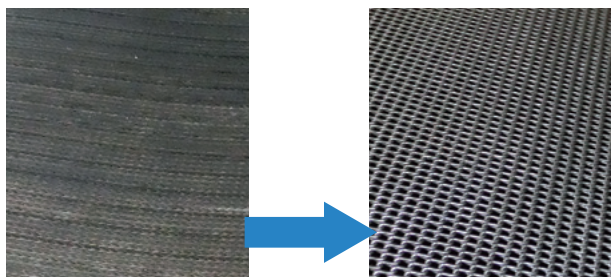
Sクラス 省エネが優良な事業者 (目標達成事業者)	Aクラス 省エネの更なる努力が 期待される事業者 (目標未達成事業者)	Bクラス 省エネが停滞している事業者 (目標未達成事業者)
【水準】 ※1 ①努力目標達成 または、 ※2 ②ベンチマーク目標達成 【対応】 優良事業者として、経産省HPで事業者名や連続達成年数を表示。	【水準】 Bクラスよりは省エネ水準は高いが、Sクラスの水準には達しない事業者 【対応】 省エネ支援策等に関する情報をメールで発出し、努力目標達成を推進。	【水準】 ※1 ①努力目標未達成かつ直近2年連続で原単位が対前年度年比増加 または、 ②5年間平均原単位が5%超増加 【対応】 注意喚起文書を送付し、現地調査等を重点的に実施。
		Cクラス 注意を要する事業者 (目標未達成事業者) 【水準】 Bクラスの事業者の中で特に判断基準遵守状況が不十分 【対応】 省エネ法第6条に基づく指導を実施。

※1 努力目標：5年間平均原単位を年1%以上低減すること。

※2 ベンチマーク目標：ベンチマーク制度の対象業種・分野において、事業者が中長期的に目指すべき水準。

※3 定期報告書、中長期計画書の提出遅延を行った事業者は、Sクラス事業の公表・優遇措置の対象外として取り扱うことがあります。

省エネルギー活動



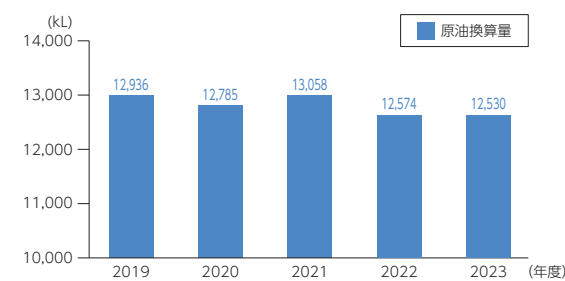
当社の主力商品であるビスケットの製造に使用するオープンベルトのメッシュを粗い目のベルト（ライトメッシュ）に変更し、焙焼時のガス消費量の20%削減を図りました。



チョコ加工で使用するストレージタンクの周囲を覆う保温材の材質を見直し、保温効率を改善しガス消費量を削減しました。

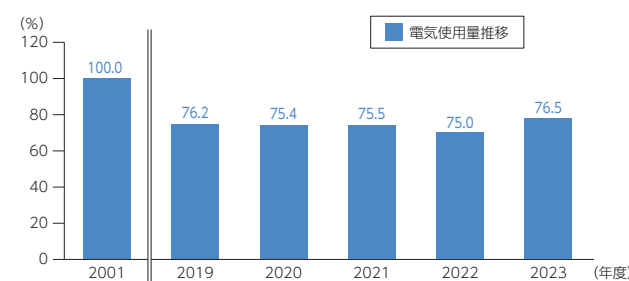
全工場のエネルギー使用量推移

■原油換算量（電力を除く）



※発電用燃料は除く

■電気使用量推移



※購入電力、自家発電設備による電力の合計
※2001年度を100とした場合

廃棄物削減・リサイクル・環境リスクマネジメント活動

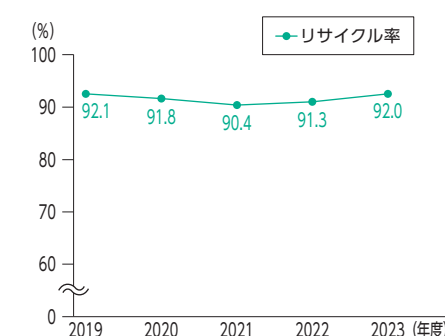
廃棄物の発生抑制

当社では、菓子製造に使用する主原料の納入を大容量化させることにより、原料梱包材の削減に継続して取り組んでいます。また、同一原料でも大型容器入りと小分け容器入りを組み合わせ無駄なく使いきることによってフードロス対策にも取り組んでいます。あわせて、ダンボール圧縮装置を導入し回収の効率化を図っています。

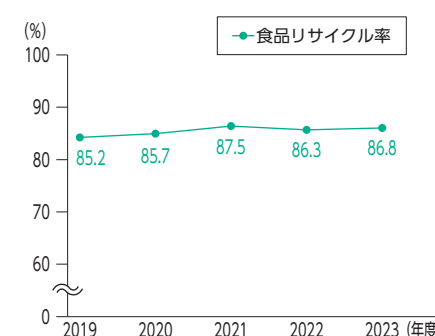


各種リサイクル率の推移

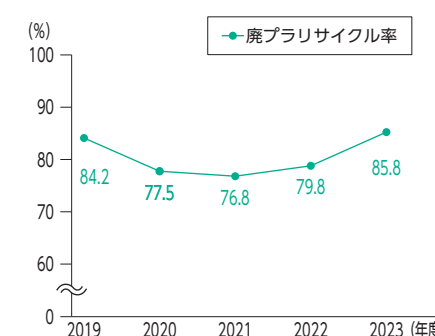
■全工場の廃棄物リサイクル率推移



■全工場の食品廃棄物リサイクル率推移



■全工場の廃プラスチック類リサイクル率推移



緊急事態を想定した対応訓練の実施



種々の緊急事態に対応するため、設備の緊急事態を想定した訓練を実施し、手順の確認と見直しを行っています。油脂タンク類、排水処理施設、ガス使用施設、自家発電設備、薬品類取扱い施設、廃棄物保管場所などでの緊急事態を想定した訓練を行い万一の事態に備えています。また、各設備において地震による緊急事態を想定した訓練も実施しています。訓練の結果により、必要に応じて対応手順の見直しや設備の改善などを行いました。

環境リスクマネジメント

種々の事故を想定した緊急時の対応訓練を行い、万一の事態にも備えています。

- 避難訓練の実施**
避難訓練時には、避難経路の確認、消火器や消火栓を使用した消火作業や応急救護と総合的な訓練を実施しています。
- 緊急事態の対応テスト**
漏洩等による敷地外への環境影響の発生を想定し、定期的に緊急事態の対応手順のテストを行い、必要に応じて手順の見直しを行っています。緊急時、外部機関への確に情報を伝達する訓練も実施しています。
- 事故等の状況**
報告対象期間中における重大な事故等の発生はありませんでした。

環境の保全・維持、社会との共生

RSPO サプライチェーン認証（マスバランス）の取得

現代社会において、日用品から食品に至るあらゆる製品にアブラヤシの果実から採取されるパーム油が使用されており、当社でも原料や製造工程の一部で使用しています。世界的にパーム油の使用が増加している反面、その生産過程において森林伐採や労働者への人権問題が問題視されており、企業は自然環境と労働環境が保たれたサステナブルなパーム油の生産・調達が求められています。当社では、2019年10月に「持続可能なパーム油のための円卓会議（RSPO）※1」に加盟し、2022年2月には、柏崎工場と新発田工場のポテトスナック製品群においてRSPOサプライチェーン認証（マスバランス※2）を取得しました。今後も使用製品の拡大を図り、環境保全と生産者の権利保護を目指してまいります。



- ※1 持続可能なパーム油の生産と利用を促進することを目的としたパーム油産業に関わるステークホルダー（生産者、製造者、小売、環境団体など）によって構成される非営利組織です。
- ※2 製造過程で、認証油と非認証油が混合される認証モデルです。物理的には非認証油も含んではいますが購入した認証油の数量は保証されています。

カカオ原料におけるサステナビリティの取り組み



チョコレートの主原料であるカカオ豆栽培地区の多くは開発途上国にあり、栽培地の開拓による環境問題のほか、児童労働や人権問題などの社会課題も残っています。当社ではカカオ原料の主要産地であるガーナにおいて、児童労働の撲滅・抑止にむけた活動を進めているほか、環境負荷を抑えたアグロフォレストリー（森林農法）による森林回復や、生産者に対してカカオの苗木の提供を支援しています。カカオ栽培と同時に、栽培地の環境保全や社会課題解決に積極的に取り組む生産者によって育てられたカカオ豆を調達し、製品に活用することで原料の持続可能な調達活動に取り組んでいます。

「ブルボン花の輪運動」の実施 ～子供たちに“笑顔の花”を咲かせたい～

2015年度より、公益財団法人花と緑の農芸財団が主催する学校の花壇づくりを応援しながら子供たちの情操を育む社会活動「花の輪運動」へ協賛を継続して実施しています。当社の本社および各工場立地地域の小学校等100校へ花の苗や球根を贈呈し、花を通して子供たちの健やかな成長と、たくさんの笑顔につながる取り組みを進めています。



プラスチックストローの代替案として使用後に食べられるストロー「コロネクッキー」の提案

当社では長年培ってきた菓子製造技術の応用や発展により、プラスチック素材の代替提案としてトッピングとしておいしくお召しあがりいただけるほか、ストローとしても使用できるスティック商品「コロネクッキー」を展開しています。「GTFグリーンチャレンジデー 2023」でも、会場内に出店している企業と共同でドリンクメニューを提案し、プチシリーズ・アルフォートミニ（エコレールマーク他）などの情報発信とともに環境対策活動の周知に取り組みしました。

～地球に優しいライフスタイルをはじめよう！～ GTF グリーンチャレンジデー



また、株式会社良品計画 無印良品 直江津店と共同で地域創生・教育支援CSRプログラム「なおえつこどもLabo.」を実施しました。ワークショップを通して、当社で展開しているコロネクッキーの他、エコレールマークや水性インキを使用し地球環境に配慮した商品や、当社で実施している文化・スポーツ支援などを題材に、当社のお菓子とCSR・SDGsの関係についての周知を図りました。

なおえつこどもLabo. - こどもたちのランドマーク -



引き続き、お客様が自然にかつ身近に始められる環境対策商品として周知を継続してまいります。



社員の健康を重視した経営

当社は、従業員が心身ともに健康で、生きがいを持って働き続けられ、多様な人財が生き活きとその能力を発揮できる職場は、働く意欲を高め企業の活動や生産性の向上、家庭生活の充実につながることを考え、戦略的な健康経営をさらに推進するため「ブルボングループ健康宣言」を制定し継続した活動を実施しています。

ブルボングループ健康宣言

- 1.社員一人ひとりが大切な経営資源～人財～と捉え健康を重視した経営を推進します。
- 2.心も体も健康で、明るく生き活きと働くことができる職場環境の構築に取組みます。
- 3.健康に関する会社の考え方や取組みを社員一人ひとりが理解し、自発的・積極的に健康の保持推進に努めます。



※「健康経営優良法人」認定制度：
地域の健康課題に即した取組や日本健康会議が進める健康増進の取組をもとに、従業員の健康に特に配慮した経営を実践している法人を顕彰する制度です。健康経営優良法人（大規模法人部門）の認定法人の中で、健康経営度調査結果の上位500法人については、特に「ホワイト500」として表彰されます。

ダイバーシティ&インクルージョン (D&I) の推進



当社では、性別や年齢をはじめとして国籍、これまでの経験など多様な背景をもつ社員がそれぞれの持ち味や個性を認め合い、能力を最大限活かし合う工夫や取り組みを推進しています。具体的な活動として、ダイバーシティ&インクルージョン (D&I) に関する会社方針ならびに、男女の育休取得率や社員の働き方に関する目標を策定し、全社横断のプロジェクトを立ち上げ活動してまいりました。D&Iにまつわる社内制度や情報の周知および発信、育児や介護等の両立支援など業務改善に繋がる施策の提言などを行ってきました。今後もD&Iの推進を継続してまいります。

次世代育成・女性活躍に関する取り組み



2017年6月に次世代育成支援対策推進法に基づく子育てサポート企業として「くるみん」の認定を、(株)ブルボンおよび北日本羽黒食品(株)(現(株)ブルボン鶴岡工場)でいただきました。さらに2022年8月には、より厳しい認定基準を満たした企業として「プラチナくるみん」の認定をいただきました。
当社では、従業員の子育てを積極的にサポートし、育児休暇取得率は男女ともに100%と、大幅に全国平均を上回っています(2023年度実績)。また、職場における男女共同参画や子育て支援などの取り組み推進企業として、新潟県知事より「パパ・ママ子育て応援プラス認定」が付加されたハッピー・パートナー企業(新潟県男女共同参画推進企業)として登録いただいています。



2023年11月には、採用や継続就業、労働時間等の働き方などにおいて、女性の活躍推進に関する取組が優良であると評価していただき、厚生労働省新潟労働局より女性活躍推進法に基づき「えるぼし認定」を取得いたしました。これまでに女性社員を対象とした健康セミナーや女性役職者の自律的なキャリア形成意識を醸成する研修の実施、育児休業復帰前の女性社員を対象とした仕事と家庭の両立に向けた講習など実施しており、今後も制度や施策の充実を図り、男女ともに働きやすい職場環境づくりを推進してまいります。

特色ある商品開発



当社魚沼工場では、内陸部での原料品の保管による災害時等へのリスク対応強化と同時に雪室を活用した付加価値向上を進めています。地域資源である「雪」の冷気を利用し、原料のカカオ豆やコーヒー豆を貯蔵することで品質の向上を図り、付加価値を高めた商品開発に取り組んでいます。

また、“日本全国47都道府県から届けられる日本産のたべもの、そしてにっぽんに、ここからエールを送ろう”をコンセプトとしている全国農業協同組合連合会(JA全農)の商品ブランド「ニッポンエール」との共同開発商品の第一弾として、青森県産の貴重なりんご「世界一りんご」の果汁入り商品「フェットチーネグミPREMIUM」を発売しました。

今後も地域の特色を活かした商品や国産原料を用いた商品の開発を図り、商品を通じて農業の持続性や地域貢献に繋げていけるよう取り組んでまいります。

“心と体の健康づくり”の推進

当社は、豊かな生活と健康に寄与する“食”の提供に加えて、CSR（企業の社会貢献活動）の一環で、“心と体の健康づくり”をテーマに、“文化・芸術”や“スポーツ”の支援と次世代育成の活動に取り組んでいます。

【文化・芸術支援活動】



- 「めざましクラシックス」：“クラシックをもっと身近に！”をコンセプトにし、1997年にスタートしたカジュアルクラシックコンサートです。当社はその振興・発展にスタート時から協賛活動で支援しています。長年にわたり人気を集めており、東京での定期公演の他、夏季のサマースペシャル公演や地方公演にも支援の活動を拡げています。
- 「ドナルド・キーン・センター柏崎」：日本文学研究の第一人者であったドナルド・キーン氏の日本への思いや、研究・著作活動等歩まれた生涯を紹介する施設で、同氏の人となりや研究への情熱など真摯な生き方をお伝えする活動を支援しています。
- 「囲碁」：囲碁は「頭のスポーツ」といわれ日本国内のみならず、世界各国で楽しまれています。当社は2013年から「全国高校囲碁選手権大会」への協賛を通じ、囲碁の普及・発展を支援しています。

【スポーツ支援活動】



- 「水球（ウォーターポロ）」：50年以上もの間、地元・柏崎市で育まれてきた水球の伝統を発展させ、2010年に社会人チームとして発した「ブルボンウォーターポロクラブ柏崎」をネーミングライツなどで支援しています。現在では社会人から小学生までの階級を有する日本最大級のクラブチームとして、社会人のトップ選手が小学生などへの指導を行うなど、次世代育成にも努めています。また、2011年からは水球の日本代表チームのオフィシャルパートナーとしてその発展にも関わっています。世界を目指して日々努力を続ける選手の支援と、スポーツの力による一体感や地域の活力を生み出す活動に取り組んでいます。
- 「ダンススポーツ」：最近国民的生涯スポーツとしても注目を集めており、その普及・振興を支援しています。日本国内のトップを決める『三笠宮杯全日本ダンススポーツ選手権』には2007年から協賛活動をスタートし、また次世代を担うジュニア・ユース選手のトップチームの活動をネーミングライツでも支援しています。
- 「スケートボード」：新潟県村上市を拠点に、スケートボード競技の認知向上と、人々の心身の健全な発達と社会の発展を目指す一般社団法人日本スケートボーディング連盟の活動を応援しています。当社は主にスケートボード大会への協力を通じ、スケートボードスポーツの振興をサポートしています。
- 「自転車競技」：新潟食料農業大学（新潟県胎内市）自転車競技部に持久系スポーツ栄養商品「ウィングラム」シリーズを提供しています。活用していただくことで選手の更なる成績向上につながる活動支援を続けています。食とスポーツの融合をテーマに活動を進め、食品と健康に関する研究への相乗効果を期待しています。

会社概要

社名	株式会社 ブルボン
代表者	代表取締役社長 吉田 康
創立	1924年（大正13年）11月20日
資本金	10億3,665万円
本社	〒945-8611 新潟県柏崎市駅前1丁目3番1号 Tel 0257-23-2333(代) Fax 0257-22-2005 URL https://www.bourbon.co.jp/
従業員数	約5,000名（ブルボングループ計、臨時・パートを含む）
営業品目	ビスケット、小麦粉せんべい、豆菓子、キャンデー、デザート、米菓、スナック、珍味、チョコレート、チューインガム、ミネラルウォーター、コーヒー・ココア飲料、その他清涼飲料水、粉末ココア、冷菓、酒類、米（通販のみ）、パン・インスタントラーメン（自販機のみ）、マスク
オフィス	赤坂オフィス（東京都港区）、神戸オフィス（神戸市）
営業拠点	北海道・東北（仙台市）、北信越（柏崎市）、関東（川口市）、中部（北名古屋市）、中国・四国（広島市）、九州（福岡市）、中華人民共和国（上海市・北京市・浙江省杭州市）
工場	柏崎工場、上越工場、長岡工場、新潟工場、新潟南工場、五泉工場、新発田工場、村上工場、鶴岡工場、御代田工場、魚沼工場
グループ会社	エチゴビール(株)、(株)レーマン、波路夢（長興）食品有限公司、波路夢（上海）商貿有限公司、(株)ブルボン再生医科学研究所、Bourbon Foods USA Corporation
持分法適用関連会社	BCCA株式会社、株式会社マルキン
開発拠点	試作センター（柏崎市）
研究拠点	先端研究所 栄養科学研究室、新食糧研究室（新潟市バイオリサーチセンター内） 先端健康科学研究室（信州地域技術メディカル展開センター内）
株式上場	東京証券取引所スタンダード市場

株式会社 **ブルボン** 総務推進部 広報管理課

TEL:0257-23-5070 FAX:0257-23-2352

ホームページアドレス：<https://www.bourbon.co.jp/>

発行年月日：2024年6月



見やすく読みましがえにくい
ユニバーサルデザインフォント
を採用しています。



FSC®認証材、再生資源、および
その他の管理原材料から作ら
れています。



環境に配慮した植物油インキ
を使用しています。